

今

がんばっています

両津吉井小学校

両津吉井小学校では、ふるさとを慈しみ愛する子どもたちを育てるために、「鬼太鼓と能を柱とする「ふるさと学」を行っています。

1 地域から学ぶ「鬼太鼓」

1～3年生は、地域の方々から鬼太鼓の指導をしていただき、3年間の学びの中で、それぞれの地域の舞いや太鼓のリズムの特徴に気付き、自分の地域の鬼太鼓に愛着をもつようになっていきます。太鼓のリズムと舞いを見て、どこの地域の鬼太鼓かを当てることのできるほどです。



3年生になると、大人顔負けの鬼の舞いを披露します。

2 地域に愛された「能」に挑戦

吉井地区には、3つの能舞台があり、学校近くには、能の指導者を請える石碑があります。それだけ、能と吉井地区は深いつながりがあります。

4年生は謡を学び、5年生になると舞を学びます。6年生は、

講師の先生とともに教え役になり、自分が学んだことを下学年に伝えるほか、能の歴史を調べることで学びを深めていきます。



夏は地域の能舞台で、練習の成果を発表し、文化祭でも披露しています。昨年は、地域の方々から、「子どもたちが一生懸命舞う鬼に感激しました」「昔、自分も能の謡をしていたことを思い出し、涙が出ました」という励ましの言葉をいただきました。

これからも、地域とつながり、吉井の伝統芸能を大切にしていきたいです。

④ 教育委員会学校教育課

☎ 58-7351



世界遺産登録に向けて

鉱山町あいかわ・下町散策⑤

学古塾と塩竈神社

相川一町目裏町には、かつて「学古塾」と呼ばれる私塾がありました。もとは、出羽国（現在の山形県）鶴岡藩士であった丸山遜卿が夷町（両津夷）に住み、医者として活動するかたわら開いた塾で、自身の雅号である「学古」をとり、学古塾と名付けました。

学古塾は、その後、遜卿の養子であった円山溟北が継承しました。溟北はのち、相川の佐渡奉行所内の学問所である「修教館」で儒者となり、相川に移住しました。「修教館」で

学問を教えるかたわら、自宅で「学古塾」を開きました。この塾は、溟北が亡くなる明治25（1892）年まで続きました。近代の佐渡島内外において政治、文化、教育などで幅広く活躍した人物たちが、この学古塾で学んだといわれています。現在、建物は取り壊され、残念ながら当時の佇まいを見ることができません。

ところで、学古塾跡の近隣には、塩竈神社があります。もともと相川塩竈神社があった塩竈神社は、慶長元（1596）年に塩屋町の長坂登り口付近に牢屋が建てられたのを機に現在の江戸沢町に移され、元の社地と思われる辺りには小祠が残されました。『佐渡神社誌』によれば、塩竈神社は、江戸沢町・羽田町・塩屋町・新材木町・羽田浜町・一町目・一町目裏町・一町目浜町・羽田村の産土神で、「明細帳」によると氏子数が484戸であったとされています。

今回は、塩竈神社に伝わる「相川音頭絵馬」についてお伝えします。

④ 世界遺産推進課 ☎ 63-5136



在りし日の「学古塾」